

周易鈔

萃 咸 蹇 謙
小過 歸妹

十

澤地萃

澤地萃



○繇曰萃亨王假有廟利見大人亨利貞用大牲吉利有

攸往

萃はあつまふともむむ人の心はあはれん和合するをハ

王者乃有廟イタツ至て祭り成さぶごく儀の敬を致して鬼神

も来格ライカクある極ト也つてせが人の心はあはれん和合してあつて

此心持して天道人道よく交マはるは是時の宜きあつて

大性タイセイ乃あつてもとのと用ひ鬼神成祭りごくも人子慈して

あつて三をあつてなまの情をを善なり

○彖曰萃聚也順以說剛中而應故聚也 といふは卦

スィハ トラルク イタル ユラ ベウニ リアリ ミルニ タイ ジシラ トルリ アリ テン ミモク タイ セイ ツキツ リアリ

○上六、齋咨涕洟、无咎。此何より歟。陰柔の小人にして、
言信より言まで祝ふとのまは人のくまざるをば、去るに依りて
華とて、故来ととりて去人とせざるが故に窮して齋咨涕洟
よとこば、心持ざる華の終りには、敬して祝の極りには、悲の
るよと思ひ、を失と神の情何至てよ記あり。

○象曰、齋咨涕洟、未安上也。と云は、小人の上より、安んずる
と故得かくば、返キと失つて、欲もあらず、困窮するも、居る
づきの地、故に擇あこ、玄福よ、まを居、故に情、心よ、たがはざ、居
極、情、何、ば、ら、よ、安、ん、ず、る、者、な、ら、む、と、云、義、あり。

○元亀曰、魚竜會聚之課、と云ふハ、生類よく、親あつまりて、
感得あらむ、如水就下と云て、心持正直よ、一、唯路よ、あつ、が
とて、吉あり。

○ト解曰、澤下有地、万物萃聚、養賢待賓、用財之象と云
は、沢の潤よ、て、萬物あはまり、あげるごとく、華の時よ、於てハ、賢者
と、養ひ、財用、故、ゆ、う、よ、し、て、吉、あり。

○火歌曰、華卦多賓客、家中意不和。と云は、此卦、賓客の多
あつ、まり、の、象、あり、多、中、よ、ハ、心、の、和、難、せ、ざる、と、あり、然、
ん、と、は、け、て、吉、あり。

○ト彖曰既華必敬得電思辱 スビニ アツクテハササズサニズ エテハ チモアラサモラハツカニズ ところハ物の華工も情の
けさバ散工有り電思の盛なるも情まがれハ辱を交工
ありけん物と情でふまこなり

○評曰内外喜悦上下俱柔 ナイゲキ エウニ ミウカトモニ ヤハラク 世のふれ内外よりこびるに
ぶ慎あらバ夏こ子潤沢なるとあふむと云候なり シニ タク

澤山咸

○繇曰咸亨利貞取女吉 カニハ トラル リアリ テイニ メトルキハメヲ ヤツシ 咸ハ三ふとふむを君臣父子等

の云備だぐひよあこしみ感ざるをあふせよ記を其感ざるを真正
のたぐし記をひまる時ハ者とを淫媚邪僻を感ざるハ邪の道
ふくよかざるをけん物よて取女工ハ主道のたぐし礼教の備
厚くよ慎あまバ感意の道まかろふして衣也

○彖曰咸感也柔上而刚下二氣感應以相與 カニハ カニナリ シウ カニニメ カウ ミモナリシキ カニ サウソモリテアイクニス 卦兌澤上
小がうてよりこび良山下子あるとどまる陰陽相交リ君臣上下
合して感意するの意也感意の道あはれ利とまる知ハたぐあま

○象曰 雖凶居吉 順不害也。 と言ハ、居処中凶の如く爻を

正すたゞ、爻を正さざるより、正す才有るを、是陰柔ありの如

く、ゆるし神ありの如く、言得るより、性より、かひなく、靜あるを、

正の未と、不待しく、爻を、動となし、極を、極むと、私の感する

は、かゝりて、言や、

○九三 成其股 執其隨 性吝。 け、由り、知れ、剛陽の才より、下

のより、在、凶、道、より、上、より、意、ざる、に、執、り、て、よ、に、ぞ、物、を、股、ハ、我

ど、自、由、なる、爻、あり、と、ぞ、是、より、隨、て、動、り、下、の、道、を、知、る、の、才、

が、つ、と、動、り、時、と、感、する、知、私、より、して、よ、から、ざる、ぞ、け、に、執、り、能、く、性、を、

○象曰 成其股 亦不處也 志在隨 人所執 下也。 と言ハ、

剛陽の質、あり、と、ぞ、より、なる、爻、あり、と、ぞ、下、の、の、と、動、り、ハ、執、守、は、

の、志、に、隨、り、と、ぞ、け、に、執、り、能、く、の、才、より、なる、と、ぞ、

人、より、なる、と、ぞ、け、に、靜、り、と、ぞ、

○九四 貞吉 悔亡 憧憧 往來 朋從 爾思。 け、由り、而、中、の、才、

あり、より、なる、心の、位、より、なる、と、ぞ、言、得、る、感、する、の、才、なる、故、感、通、の、道、

ハ、貞、の、如、く、爻、を、以、ま、れ、バ、悔、し、若、我、が、心の、より、なる、故、爻、の、私

情、あり、と、ハ、モ、朋、類、より、隨、り、偏、感、通、する、と、ぞ、け、に、執、り、

私、の、の、才、より、なる、と、ぞ、

冥ミコトまらふ影カゲよる至至人人を感感ぜしむるなりを成成の道道とほり
ふれど、けし持持たひよく感感ぜらるまことを成成るの情情を
有有あり

○元龜曰、山澤山澤迫迫氣氣之之課課、とらふハ山澤山澤の氣氣通通るをく、
至至微微よをこるひありハ神明神明も感感應應あるまで有有あり、

○ト解曰、成成交交感感也也、と云ては卦上卦上ハ兄兄の女女まで柔柔和和下下ハ
艮艮の少男少男まで剛陽剛陽なる故故よ上下上下剛柔剛柔交交感感るの故故とよく正正

と云交交り感感ぜる時時ハ利利ありて有有あり、

○ト彖曰、剛柔剛柔感感應應上上下下和和平平、と云ハ内外内外精精粗粗も有有ると

と云よ和和融融あるをいふよけし遠遠とあるのい持持よて有有あり、

○ト象曰、澤山澤山成成處處感感思思生生、と云ハ物物のたぐいも感感通通あ

るまで思思はのうらさといふ家内家内和和治治して徳事徳事ゆよけし遲遅滯滯
なく速速子子行行ひく有有也

むとてハ陰よぢりしるぞ。しよはる九三少あしむとあらバ
下の衆人あしがひ附とあむけしおと慎で我をたのきて
云とらまきくまを衆人よ命とあるの心持小怖ぐよまきるま

○象曰往蹇来連當位實也。と云は言位あるまとい其

蹇難の時よ當て下と志と合するハ衆とあるの義ハ陰衆
みく陰の位あたるは實あるの義なり。しおと蹇難の時
小あるまとい下の交り実と心カと名救時ハあるの義なり

○九五大蹇朋來。此あしよあら君の位なりといつた蹇

難の中ハ陷て大蹇の時なり。おしよ六二の正しくを意ど

るものありて中正と心輔助のためけしよまふなり。朋來と云ぞ
去程よ徳ある者ふてもよ程のたまけかけし難と救功
とあまをたしむるぞけんおと人の徳しあしよい來たは
陽うよはししみありて吉也

○象曰大蹇朋來以中節也。と云ハ我よけしおの徳ある

小依く下の中正のものおあどく大蹇の時といふと守如ぞ
失らざるぞけんおと考よ節義を失つとあく輔とあまの
と失らざるはしよ怖ぐよはなり

○上六往蹇來碩吉利見大人。此南とあら陰衆はて

ハチハナヤミアリキタセハコノイナリキツリアリニルニ

蹇の移るる所は、おろししてまきまんとまればあり、下の剛陽乃
たまふとぬぎきののどけり時ハ蹇は救とありむけんおど
でよにあり、

○象曰、往蹇来碩、志在内也、利见大人、以从贵也。
と云は、我が陰居るる下九三の剛陽は、意どしてたまけらる
時、おどけり、又ぬぎの大人は、まきまんとまればあり、
りらくと成ぬべし、心おどす、卒尔は、まきまんとまればあり、
てよにあり、

○元龜曰、飛鴈啣芦之課、と云ハ、言のふぎるる所は、
ことおどけり、おどけり、おどけり、おどけり、おどけり、
おどけり、おどけり、おどけり、おどけり、おどけり、

○ト解曰、蹇者難也、卦却トは、艮山とて止、上は坎水とて陰、
とけり、みらるるまきまんとまればあり、象は、けんおどす、
まきまんとまればあり、
○ト彖曰、卦違、除人情相失、と云ハ、おどけり、まきまんと
て、幸の心おどす、まきまんとまればあり、
情でよにあり、

○評曰、蹇者難也、多有壅塞、と云く、物のぬぎがらむと

こぞをよききて来と遂ぐるあるべし。よく情づく時ぞ、
心持少く吉也。

地山謙

○繇曰謙亨君子有終

と下也少と地の中其山あるは厚りゆるの幾少と精はた
人らをも少と成就あるぞ小人ら久安謙をとなすは欲小
きもい徳小をとりてあきぞ君子ハ謙を以て厚りゆるを
理小をさぐひ達して天とたのしあむずるともあそく終と
くさるれは持少て吉なり

○彖曰謙亨天道下濟而光明地道卑而上行

は天の道ハ降て交地美物と化育するハ天の謙して

化育の功ありらるるを地之道ハ卑物ヒミのトシあるハ地之謙ヒ
てモ氣キ上行カクして天テンと交カりあるは天地も少シ初ハツ後コとを以て
は心持ココロ少く天地鬼神人道も皆盈ミルと恐オソふより強ツヨク人ヒトはあ
るてハ謙ケン事コトを好スハ人たるは徳トク多タカ事コトを信シあまはバ道ミチ言コト
して光ヒカリ顯シあらむとくモ光ヒカリあらはれて名ナ也

○象曰地中有山謙君子以裒ヒキ多益寡稱物平施シ
と云ハ卑下の中ハ高タカ言コトと蘊ツムの象と君子是と云て言コト紀キ
のとたゞなくトヒキとあげらるは損ヒキして不レ及バと益ヒキと物モノの多タカ
寡ウツクともかりてモ施シと均ヒトシして其コノのよありと云と云かりたきを根

小我身とたうぶる変わく人と益の信シして云コトあり

○初九謙之君子用涉大川吉キ 是コノと云と云と云コト象シ唯ヒ少シと

象曰謙之君子卑以自牧 といふは君子たるの道卑ヒミ
辱シりてシ牛羊と牧コトとく馴ナレ彼カせめて云コト紀キと云コト常トコに
驕奢キウセのをこりシと云コト其コノ氣キと牧コトらあきぞは心持ココロ少く謙ケン
るは衆人のせふと云る変ヒキえて陰難のむづかしき大川のあ
辱シりても勝カクりシ害ガイあきぞは心持ココロ少く物モノの急イハ速ハヤなるを
謙退ケンタイして先サキと争マシまシあきシの信シあまはバ失シふシて名ナあり

○象曰謙之君子卑以自牧 といふは君子たるの道卑ヒミ
辱シりてシ牛羊と牧コトとく馴ナレ彼カせめて云コト紀キと云コト常トコに
驕奢キウセのをこりシと云コト其コノ氣キと牧コトらあきぞは心持ココロ少く謙ケン

雷山小過

○繇曰小過亨利貞可小事不可大事飛鳥遺之音

不恒上恒下大吉 小過象志じまぐるともむむぞ枉ものぞ

ぬめて正まるとは、ま事と少くまの義あり、あらざるを

時よぬめて正まるとまは、まぐるの理あり、小事ふはま

れ共大事まは、まかむと云は、飛鳥の音と遺とく、小く不恒上

象下、心持小く物のあまり、飛鳥たるまなく、咥路ふるまを、進

あるの情ふてまはかり

○彖曰小過小者過而亨也過以利貞與時行也

懼となりて、ほよぶるを、城防の情少く、主臣小計とあり

○象曰、弗過遇之位不當也、往厲必戒、終不可長也

云云、陽少く陰の位あるは、主位を尚され、陰柔を以て剛と爲す、
主なきより、咎ありして、冥冥と計り、計心持を静み、
まんどて時をまら、情をよむなり

○六五、密雲不雨、自我西郊、公弋取彼在穴、

下と陰柔よりして、号位あるより、行とされ、功を成し、
雲密され、雨ふらざるがごとし、主輔と如く、計り、未だ、
陰柔よりして、大いあるを、城がごとし、時を待て、

情少くよむなり

○象曰、密雲不雨、已上也、と云は、陽上りて、

合され、雨ふらざる、陰柔よりして、よあるは、
下と名せざるの意也、情で位特く、言ふらざる情を、
よむなり

○上六、弗遇過之、飛鳥離之、是謂災眚、

前は陰柔を以て、つらよの極なり、其理を遠く、
飛鳥の遠く、もたれて、凶がごとし、計心持、天理を、
よむなり、極あり、

○象曰弗遇過之已亢也。と云は、さうの終り居ハ上
凌ギ、理キ、あ己シ、てゐるの極キ、のぞ、去キ、物モノ、退ヒ、して
さハり、まキ、むキ、と、極キ、の、情シ、どキ、まキ、なり、

○元龜曰飛鳥遺音之課。と云は、飛鳥の、さキ、り、さキ、り、さキ、り、
る、ハ、逆キ、ある、ぞ、の、さキ、り、と、極キ、あ、る、まキ、さキ、り、極キ、の、情シ、どキ、まキ、なり、

○ト彖曰用心過高豈勞心力。と云ハ、たキ、う、めキ、り、さキ、り、さキ、り、
心シ、カキ、と、勞キ、さキ、り、と、あキ、むキ、むキ、さキ、り、さキ、り、さキ、り、さキ、り、さキ、り、

○十干詩断曰躁進將成亡女。と云て、さキ、り、さキ、り、さキ、り、
さキ、り、さキ、り、さキ、り、さキ、り、さキ、り、さキ、り、さキ、り、さキ、り、さキ、り、

雷澤飯妹

○繇曰歸妹征凶无攸利。飯妹、さキ、り、さキ、り、さキ、り、

○男女乃相得、さキ、り、さキ、り、さキ、り、さキ、り、さキ、り、

○雜サツ、さキ、り、さキ、り、さキ、り、さキ、り、さキ、り、

○さキ、り、さキ、り、さキ、り、さキ、り、さキ、り、

○彖曰歸妹天地之大義也。天地不交而萬物不興。飯妹
人之終始也。說以動所飯妹也。さキ、り、さキ、り、さキ、り、

男女配合きは天乃常理なれども、荒の少女より、説で
ら、三からぞして、位河、らさば、出と云ぞ、拘のたゞ、きと失
こは、私情よあ、ぐい、我、欲、哉、肆、ま、る、ハ、男女の若
情、却、忘、て、陰、柔、を、陽、剛、を、棄、は、利、を、知、る、に、ぞ、け、ん
拵、以、義、の、正、き、子、より、や、し、子、情、で、り、り、

○象曰、澤上有雷、歸妹、君子以永終知敝、と云ハ、上、は、兌、の、澤、下、は、震、の、雷、の、正、に、て、陽、動、以、て、陰、説、從、君、子、は、象、也、見、て、
男女の道、誠、三、し、終、り、を、永、く、敝、あ、る、を、戒、知、ル、が、也、
和、子、で、久、し、か、ら、ず、き、の、道、を、教、る、ぞ、け、ん、拵、を、拘、を、

是れ、終、り、あり、久、く、け、き、バ、敝、工、河、り、の、る、を、よく
常、の、行、成、三、し、守、の、情、あ、て、り、り、

○初九、歸妹、以、娣、跛、能、履、征、吉、と云、ハ、女、の、跛、と、下、
何、ぞ、て、三、意、ぢ、る、の、る、に、ハ、娣、乃、象、り、り、然、レ、ハ、陽、剛、
徳、あ、る、は、女、子、何、つ、て、ハ、賢、貞、の、徳、あ、る、の、義、に、去、程、
何、り、と、ン、ハ、賢、良、れ、才、あ、る、の、ハ、遠、大、に、功、と、及、ま、る、
何、も、身、成、り、し、君、を、た、ま、く、る、の、志、と、り、き、た、る、
取、成、三、し、吉、の、情、あ、る、を、表、す、り、

○象曰、歸妹、以、娣、以、恒、也、跛、能、履、吉、相、承、也、と云、ハ、
象曰、歸妹、以、娣、以、恒、也、跛、能、履、吉、相、承、也、と云、ハ、
象曰、歸妹、以、娣、以、恒、也、跛、能、履、吉、相、承、也、と云、ハ、
象曰、歸妹、以、娣、以、恒、也、跛、能、履、吉、相、承、也、と云、ハ、

きよまりの女の飯イと成思イもんざりしてゆく如く侍
居ルがど此レの侍イと和説ありとしレた礼儀イと失レつが侍
何レとせよにあり

○象曰歸妹以須未當也、イとは女の居ル知ル主法イ王飯イと

昔未レと皆道イ何レらざばよまり是レと兩レ家の侍イ玄イ禮イ
と則レと少イ賤イと貴イと陵イとの侍イをレたあり

○九四歸妹愆期遲歸有時、イ何レ王イは上イ体の高イ子イ居イ

て陽剛イの女子イありては凶イ賢イの女イのと次イ然イた
凶イ意イの女イの飯イとレふイと時イ成イとレて

何レとハ能キ意イと侍イてゆイむと高イらげど玄イ禮イの男イ
ととまイちやるイと遂イととイふイ能キ貞イと侍イて時イ成イと

何レハ賢イのたまけとイらイの何レととイ云イなり

○象曰愆期之志有待而行也、イとイハ凶イの賢イ女イの

要イと侍イて飯イと何レげつイ侍イて才イ法イと身イは侍イてイらイなり
昔イと未イと侍イつイ侍イてイらイなり

○六五帝乙歸妹其君之袂不如其娣之袂良月幾望吉、
イ何レ王イハ高イ位イの何レりて妹イの高イ位イの何レりて

何レととイらイ王イ姫イの何レととイらイの義イと

玄從子貴身ありとも、聖職ありて尊りくづる至密飾

かざる至むせは礼儀或尚のりあり月と陰ありとしど

盈は湯の敵きりりのこ望も幾と云て未至盈の情あり

○象曰帝乙歸妹不如其娣之袂良也其位在中以貴行也

と云は尊貴の位ありとくも其もほあらしとく

柔順して降居て礼をよけし持めて女はも位高き

こしつた男もあしづいて礼を踏とるにやうな情である

○上六女承筐无實士刲羊无血无攸利沙ありて王女ハ

飯妹の終りしてトモふこは意をいれた陰柔なるあまた

けとならば次婚は消しそこのかきおかしめと何

らんとまれば終りき厚うよあむん持とま実柔和

な情ありば自然なまをけあて利あるとくのもむ

○象曰上六无實承虚筐也とつふハ陰柔よて一卦の情

あるハ実あふてはたまけり此の義なり我身は行な

けまば人たきぐるの道あり能くもてよれたる

○元龜曰浮雲蔽日之課こしハ日月のゆかなるごとく正首

る物をあひかくさし能く其心成されやうまやうま

と月いてふんあり

○卜解曰、飯妹者不正之卦也。此卦より情なきまはたぐ

ち又ふきぎ物アヒの晴昧アヒるる道アヒをいふれがぶの心持よてま

○火歌曰、飯妹陰私ハヒ更欲生ハヒ所陳ハヒ心意ハヒ未分明ハヒ。と云は

私の人あゝふ私ハヒとは其ハヒのハヒ陳ハヒられざるものぞかく

し。私ハヒしるるハヒたにハヒ情ハヒなきにハヒるる

○卜彖曰、陰陽不交、閉塞不通。と云は、より厚ハヒてハヒるに

厚ハヒより交ハヒされば人ハヒとふ通ハヒてハヒ何ハヒも能ハヒくハヒしハヒる

○十干詩断曰、春花秋月シ兩相思シ。と云て、何シのシ何シのシ

もにシよりあよてシ喜シ慶シあシむと云シふシなり



元文第五龍次庚申初夏

上陽山田郡西小倉邑

藤生山現主沙門純峯榮倫書日



132X
32/8
10